



特集

ひとはく研究員、

ヒアリを迎え撃つ

ヒアリ

*Solenopsis invicta*

Photo by Y. Hashimoto

アフリカの東部にあるタンガニカ湖は巨大で、日本最大の琵琶湖と比較すると、表面積は50倍、深さは14倍もあります。この湖には250種ものシクリッド科魚類が住んでいます。シクリッド科は日本に分布しないので、どんな魚か想像しにくいかもしれませんが、サンゴ礁などに住むスズメダイ科(クマノミなど)に近い仲間です。タンガニカ湖のシクリッド科魚類には珍しい生態を持つ種が多いのですが、今回は、巻貝の空殻を住処とするテンポラリス矮小型という魚をご紹介します(矮小型と呼んでいるのは、このほかに体の大きな普通型もいるからです)。

この魚は、「シェルベッド」という底質に住んでいます。シェルベッドとは、高さが6cmくらいの巻貝の殻が敷き詰められた、とても珍しい底質です(写真1)。タンガニカ湖は水がアルカリ性なので、貝が死んでも殻がずっと残ります。そして、このシェルベッドに住むテンポラリス矮小型は、体長がオスで4cmくらい、メスで3cmくらいの小さな魚です。オスは半径1mくらいの縄張りを持ち、その中にある十数個の貝殻のうち、大きないくつかを住処とします。そして、縄張り内のほかの貝殻には、メスが1~3匹ほど住んでいます。つまり、オス

1匹とメス数匹が同じ縄張り内で暮らす家族なのです(写真2)。オスは気が強く、敵が自分より少しくらい大きくても、縄張りに入ってきたら追い払います。しかし、自分より何倍も大きな魚食性の敵が来たら、素早く住処の貝殻に潜り込んで難を逃れます。メスは、貝の奥に産卵します。そして、オスが縄張りを守ってくれるので、安心(?)して子育てをします。

縄張りには、隠れ場所と産卵場所となる貝殻のほかに、食べ物となる藻類やプランクトンも豊富なので、オスもメスも一生の大半をそこで過ごします。湖が巨大なのに、こんな小さなスペースで人生が完結するなんて、なんだか不思議ですね。

高橋鉄美(自然・環境マネジメント研究部)



写真1 シェルベッド

写真2 パトロール中のオスと、貝の中にいるメス

## トピックス

## 新著書紹介

書籍名：図説 日本の植生(第2版)

著者名：福嶋 司(編集)

頁数：186 ページ

出版社：朝倉書店

石田弘明研究員と黒田有寿茂

研究員が分担執筆



書籍名：新訂版 コケに誘われコケ入門

(生きもの好きの自然ガイドこのは No.7)

著者名：このは編集部(編集)

頁数：96 ページ

出版社：文一総合出版

秋山弘之研究員が分担執筆



書籍名：新版 両生類・はちゅう類

(小学館の図鑑 NEO)

著者名：松井 正文ほか(著,監修)

頁数：183 ページ

出版社：小学館

太田英利研究員が分担執筆



書籍名：危険生物

(小学館の図鑑 NEO)

著者名：塩見 一雄ほか(著,監修)

頁数：191 ページ

出版社：小学館

山内健生研究員が分担執筆

